

第1回 阿賀野市市政モニター一会議 議事要旨

1 会議の概要

日 時 平成30年10月31日(水) 午後7:00~8:30

場 所 阿賀野市役所 第1多目的ホール

出席者

【モニター】(敬称略)

百都 順也、佐藤 公明、坂詰 榮子、佐藤 晴希、杉山 啓子、高澤 健一、
齋藤 和枝、齋藤 ふみ子、田村 千恵、榎本 英樹、本間 正樹

【市】

市長政策・市民協働課：課長 荻部 一雄、秘書広報広聴係長 遠海 美穂子、
秘書広報広聴係主任 小林 政仁

2 議事概要

普段の生活の中で感じていること、地域や身の回りで起きている変化、疑問に思
うことなど

3 主な意見 (○：モニター、●：市)

(1) 子育て

- ここ数年で東部産業団地内の遊歩道や公園の管理がなされていない。公園の遊具は撤去され、チェーンが掛かって入れないところもある。子どもが遊べる場が少なくなってきた。横越公園のような半日、1日中過ごせるような拠点が阿賀野市にないのが寂しい。
- 阿賀野市にも朝食抜きの子どもがいるのではないか。そのような子どもがいるのであれば、そこを指導・改善する良い方法はないものか。
- 市健康推進課でも力を入れて取り組んでいる。
- 食生活改善推進委員会でも取り組みを進めている。ただ、親に直接伝えることができればよいが、その機会はあまりないのが課題である。
- なるべく子どもと一緒に食べるようには心掛けているが、朝は会社に行く準

備が忙しく、子どもと一緒に食事ができないことがある。

子どもに調理前の野菜を見せても分からないものがあり、野菜と触れ合うために農業体験をさせたいと考えている。

- 野菜を生産するようになり、売れ残ったものを食べることから始まって、だんだんと野菜を食べるようになった。自分で作れば食べるようになる。子どもの頃から調理済みの野菜だけでなく、育てている野菜を見せると子どもに伝わる。魚も同様のことが言える。

(2) 教育

- 地元企業のほとんどは、地元の人材を採用したいと考えていると思う。ただ、今は景気がいいので、優秀な人材は大企業や知名度の高い企業に就職してしまう。若者が地元の企業に魅力を感じにくい状況にある。現在は阿賀野高校でキャリア教育や地元企業での就業体験を行っているが、高校生はある程度進路が固まっており、そこから阿賀野市に就職とはなりにくい。やはり、小・中学校の頃からの職業体験を通じて、地元の産業や企業を知ってもらうことが必要。地元に残る若い人が残る取り組みを市・学校と連携して行いたい。

(3) 健康

- 五泉市のトレーニングルームは誰が利用しても無料である。一方で阿賀野市は有料。「健康寿命日本一」を目指すのであれば、トレーニングルームをどんどん使ってもらおうというくらいの気持ちが必要。もっと思い切った予算編成を考えてもよいのでは。

- ランニングコースについては、65歳以上は無料である。

- どの年代でも健康は大事なこと。気軽にトレーニングできる環境があってほしい。

- 60歳になると退職する人が多いので、60歳から無料にしてはどうか。退職を機にプールに通い始めたとの話をよく聞く。

- 平成27年に「塾のコンビニ事業」で整備した水原体育館と笹神体育館以外にも、京ヶ瀬地区は市立図書館に、安田地区はコミュニティセンター城の内に、それぞれランニングマシンとトレーニングマシンがあり、いずれも無料で利用できる。

朝は各地区でラジオ体操を実施しており、健康づくりに取り組んでもらって

いる。

- ただ、コミュニティセンター城の内は開館時間が短い。夜になると通えない。
- 以前名古屋に住んでいた時、トレーニングルームに行かなくても、近くの自然公園に行けば気分良く、適度な運動ができた。阿賀野市は自然が豊富なことから、各地区に自然を感じながら運動できるスポットを決め、運動できる環境を整えてはどうか。

(4) 暮らし

- 駒林の点滅式信号機がある交差点では、毎年交通事故が多発している。かなり前から点滅式信号機撤去に関する陳情も行っているが一向に撤去されない。点滅信号があるため、かえって危ないと感じる。
- 9月議会一般質問で倉島議員から同様のご意見をいただいた。市では阿賀野警察署と連携して道路カラー表示や路面表示などの整備を進めているところ。
- 国道290号は、交通量が多く、スピードを出す車が多いため、高齢者が危ないと思って外に出にくい。そこで、立体横断歩道*を採用してはどうか。安全性の精査は必要かもしれないが、静岡県で導入しているようだ。
※トリックアートのように白線が浮き上がって見える横断歩道で、運転手に減速を促すことができる。
- 高校生や大学生になると行動範囲が広がる。周りの人の話を聞いていると、阿賀野市は住むにはいいところ。ただランチでさえ市内ではなく、新潟市など市外に出る。高齢者だけでなく、若年層、中年層が集える場所、身近なことといえばファミレスでもよいと思う。
市内には体育館も図書館もあるが、亀田体育館や新発田のイクネスに行く。他市にはある何か足りないのか、足りているけどPRができていないのか。
- 保護者同士で「阿賀野市にイオンがあればいい。みんなが1日中過ごせる場所があるといい」という話題になる。1つでも大きくて魅力的な施設があれば若い人たちが集まるのでは。新潟市の河渡は、大規模なショッピングセンターができ、そこから開けてきた。
- 車社会で行動範囲が広がり、人口が減少しているのだから、各地区に必要な施設を分散して置くという考えから、市内1か所に拠点となる施設を置く考え

にシフトすることが必要になってくる。市外に行くくらいなら、市内に拠点となる施設があれば市民はそこに集まれる。

中途半端に小さい公園だとか店や施設では集まりにくい。それなら1つ魅力的な施設を1つ建てるという発想があればと思う。商業施設と公共施設が集約されていれば市民はもっと活用できるし、PRがしやすい。

- 2、3年くらい前から交通弱者が増えていると感じる。市営バスの需要もあると思う。水原商店街で商売をしているが、バス停から近いこともあってお客さんが来てくれる。バス停まで品物を持っていったり、お客さんを送迎したりすることもある。これからはこのようなサービスが増えてくるのかなと思う。

近所に高齢者の1人暮らしが結構増えてきた。逆に小学生は3人しかいない。水原小学校の入学児童も100人を切ったようで、少子化を実感している。

(5) 経済

- 市内には工業団地が多くあるので、企業誘致が進んでくれることを期待している。
- 新しい企業を誘致することも大事だが、地元企業が地元の人を優先的に採用すればよい。
- 若者が流出するのは、勤め先によるところが大きい。阿賀野市の中で魅力を感じる企業を育て、そこに若者が入社する道筋がないと、高校・大学を卒業して都会に行ってしまう。
- 新発田管内の有効求人倍率は約1.63、一方で東京は2.17である。今はこれだけの格差があり、東京の大学に行き、そこで就職し、そのまま帰ってこない状況。東京オリンピックの2020年までだとは思うが。
- 今は、新人が会社を選ぶ時代になっている。優秀な人材がほしくても、企業の魅力がなければ集まらない状態。今の若者の傾向として、給料よりも自分の時間を持つことを重視する人が多いと感じる。

(6) その他

- 粟島浦村では、都会から子どもを留学させているとのニュースを見た。阿賀野市でも都会の人に自然の豊かさをPRし、中学生などの体験入学の誘致を考えてみてはどうか。子どもが来れば、その親も来る。田舎は住みやすくていいと思ってもらえれば、定住に結び付くと思う。

- 高齢農業者の多くは、すべての工程を一人で行っていて大変である。ジャガイモ掘りなど、子どもたちが体験として農作業にあたることで、高齢者は子どもたちと触れ合えて楽しいのかなと思う。子どもたちにとっても良い体験になり、さまざまな相乗効果が期待できる。

- 駒林3区だけ消雪パイプが通っていない。20年も言い続けている。3区は駒林側と面しているため整備が遅いとの説明を受けていたが、駒林5区、6区は両サイドが川であり、説明に矛盾を感じる。